

■国政活動10周年 記念パーティー	1~2
■ご挨拶	3~4
■活動報告 in 東京	5
■2014年前期 写真で振り返る大分での活動	6

国政活動10周年 記念パーティー(大分市)

足立信也国政活動10周年記念パーティーが、大分市内のホテルで開催されました。原尻正信後援会長挨拶の後、発起人を代表して山海嘉之様(筑波大学教授・サイバニクス研究センター長、CYBERDYNE株式会社代表取締役社長)よりご挨拶を頂き、来賓としてご出席いただきました日本医師会会長の横倉義武様、大分市長の釘宮磐様、大分県立看護科学大学名誉学長の草間朋子様より祝辞を賜りました。

その後吉良州司前衆議院議員の乾杯のご発声で開宴、支援者である「マイサテライトキー」の歌や「工藤さんと仲間達」による弦楽四重奏で会場は盛り上がりしました。また祝宴中、発起人であり東京後援会の代表世話人である渡辺俊介様と高田和男様より激励のご挨拶を頂きました。

足立は、盛大に開催できたこと(県内外より約500名の出席)に心より感謝申し上げます。今後、国民のための政治に努め、志を高く持って、今後の活動に取り組んでいく決意を述べました。

足立信也後援会 会長

原尻 正信



礼を申し上げます。更に、北野大分大学学長、草間看護科学大学名誉学長とたくさんのご来賓各位にも心からお礼申し上げます。次期参議院議員選挙が2年後に迫ってきており、政界地図は予測が困難な状況です。次は前回とは違い野党の中での戦いで、しかも向かい風で厳しいものがあります。郷里大分から輩出された国家の逸材、この足立に皆様の心強い御支援をいただきます。

筑波大学教授・
サイバニクス研究センター長
CYBERDYNE株式会社
代表取締役社長

山海 嘉之



本日、野党という厳しい状況の中にもかかわらず、日本医師会トップの横倉会長が足立という人物を信じ、評価していただいて、ご多忙の中はるばる東京からかけつけて下さった事に、心から感謝とお

足立先生が大臣政務官のときに、経産省と厚労省が一緒にドラッグラグ、デバイスラッグ問題に取り組みプロジェクトをつくられ、これをきっかけにそれまで縦割り行政で進まなかった政策が進むようになった。また、大分を中心とした東九州メディカルバレー構想も足立先生が強く政策を牽引されたことが大きい。私がやっているロボットスー

HALの会社も今年10周年。足立先生のこの10年には想像を絶する苦勞があったことと思うが、これからの日本のライフィノベーションを大所高所の観点で統括できる政治家は足立先生しかいないと思う。ぜひ頑張ってください。

日本医師会 会長

横倉 義武



10年前、「医療崩壊」という言葉が飛び交う中で、一人の命を助ける外科医より日本の医療全体を立て直すた

めに政治家を志すと言ってメスを置いた足立先生は本物の外科医だと思った。東日本大震災を機に、全国の医療・介護・福祉関係45団体のすべてをまとめて被災者健康支援連絡協議会を作ったのも足立先生。団塊の世代すべてが75歳をむかえる2025年を目標に日本の地域医療・介護の提供体制を整備するためには、足立先生が政治家であり続けることがとても重要。大分のみなさんにはどうか足立先生への支援をお願いしたい。この10周年記念パーティーが「次の10周年」につながることを祈念している。

大分市長 釘宮 磐



足立さんを10年間支えて来た皆さん、政界で活躍したことを評価する皆さん、野党の国会議員のパーティーとは思えない顔ぶれが集まり、私がこれまで見てきたパーティーとは全く違う会です。地方が疲弊を

生会議の人口問題検討分科会の人口推計では現在1,800ある自治体の半分が50%以上の人口減によって消滅してしまう。これから福祉・医療、併せて地域の再生をやっていかねければならないので足立さんにしつかり取り組んで頂きたい。政権交代が常に行われる緊張感の中でよりよい政治、そして国民の「今何をやって欲しいか」と言うことをしつかりと受けてそれを実現していつて欲しい。



大分県立看護科学大学 名誉学長 草間 朋子



大分には14年間お世話になり、今は東京で活動していますが大分が元気になる事が凄く嬉しい。特定看護師に関しましては大分からきつかけを作りましたので、団塊の世代の人達が後期高齢者になる時には、日本のモデルになるような施策を是非大分で作って頂きたい。足立先生は大分を限なく歩いており、県民が必要としていることについては小さな事にでも気付かれています。これまでの足立先生との長いお付き合いを通して、足立先生は気付き・勇気・やる気の三つがある政治家であると思っています。野党になろうと与党になろうとブレない足立先生をこれからもしつかり応援して行きます。



ご挨拶

皆さんこんにちは。本日は雨の降るお足元の悪い中ご出席頂き、有難うございます。

この会には、先ほどお名前にてご紹介させていただいた方々以外にも様々な分野の方が多くいらつしやいます。そして何よりも支援者の方々。また事務所のスタッフの皆さんにこういう会を企画し催していただきありがとうございます。

10年前を思い出しますと私は全国で最後の出馬表明でした。4月26日です。私が一番嬉しかったのは、今来賓として名前を呼ばれた地元大南地区、とりわけ戸次地区から地区推薦と言う形をいち早く頂いたことです。足立信也の事は知らないけど、「一也（つぎや）」「ウメノ」（両親の名前）は大体みんな知っている。両親が亡くなつてか



ら10年目にあたる時でもありました。50歳までには大分に帰ると言う話を地元でさせて頂いておりましたので、これも一つのきっかけかなというふうに思ったのです。その時に地区の皆様からご推薦を頂いたのが何よりも私には心強い・力強い後押しとなりました。投票日に、地元の投票箱がまだ開票所に到着する前に当確が出てしまったというのが地元の方にとっては非常に残念だったかもしれませんが、本当にありがとうございます。当時は親族会を最初開きましたけど20名位でしたが、今は10倍位増えております。その間「おじ」「おば」あるいは「いとこ」等、あのきつかけであのタイミングで私が戻つてこなかったら、恐らく親戚の方々も知らないままに終わってしまった方がたくさんいたのではないかなと思います。あのタイミングとして天が与えたものではないかと思えます。そう言うことを言うと、私の所に説得にきた吉良州司君が「私は、天じゃないよ」と言うかもしれないが、実は彼が衆議院議員になったのはその半年前で、その時東京で予算委員会を控え勉強会を開いておりました。

先ほど横倉会長がおつしやって頂きましたが、このまあいくと日本の医療はダメになると言う実感は私に持っておりまして、吉良君に衆議員になったんだから私が色々提言したいのでそれをやってくれと言いました。ところが、3月25日に突然電話がかかってきた訳です。事情は色々ありましたが、自分が医療のことは自分で解決しろと言う風に言われました。彼も今まで経験を積んできたのか、家内も高校の同級生ですから、家内の方にまず説得に来ました。結論としては、家内が私に「あなた断れないでしよう」と言いました。わずから5日間の決断でございました。当時勤務していた病院に当然何百人という患者さんが居ます。その方々も4月以降見る予定ではあったんですが、それから約1ヶ月位懸けて一人一人に手紙を書いて、大分と筑波を行ったり来たりしながら、母親の命日の4月23日に帰ってきたというのが10年前



国際医療福祉大学大学院教授
元日本経済新聞社論説委員

渡辺 俊介



日本テレビ放送網株式会社
解説委員

高田 和男

でございます。その後のことは過分なご紹介がありましたので、あまり長く話しても仕方ありませんが、ただやったことを簡単に羅列します。先ほど医療の話が会長からありました。当時はまだ世界で一番進んでいる、効率的だと評価されていたんです。でも現場にいたらこのまま行ったら危ないと言う感覚がありまして、それを皆さんに知ってもらおう。そしてその原因を分析して解決すること。これはできたと思っております。それから山海教授からでしたがドラッグラグ・デバイスラグ（欧米での使用許可がすぐにおきている医薬品・医療機器が、日本で使えるようになるまでの時間差）の話がありました。薬や機器は使用承認が遅れている。これにも原因があるのです。それを分析して一つ一つ解決する。今はほとんどラグ（承認の遅れ）はなくなりまして。何が今までと違ったか、物事には原因がある



互いの事が言えなかった。そこを横串を刺して、こう言う原因だからそれぞれの分野で解決したらできるじゃないか、ということ言えた10年間だったと私は思います。もう一つ挙げますと今ラグって言う言葉がありました。もう一つ言われてます、ワクチンギャップ20年。しかしこの20年の時を超えて、新たに法定接種を三つ加えましたし、この秋からも二つまた加わります。20年でできなかったことをやつてきたと言う自負は私にはあります。そして

ことをきつちり分析してこなかった。そして原因が分かっている縦割りでお

先ほどおっしゃっていただきました、東日本大震災に對する被災者健康支援連絡協議会。日本で初めて大学と医師会が同じテーブルについて、日本の国民の健康のために一緒にやろうじゃないかと言うことを作り上げるのができました。震災から5日後、議員会館の一室を2ヶ月借り切つて、通信機器を持ち込んで、連日こもりきりで会議を致しました。何とかそれを継続することができました。今後この国が迎えるであろう大災害の時に、もう一回み



工藤さんと仲間達による
弦楽四重奏



マイサテライトキーの
歌と演奏



んなが集まって、しつかりやりましょうと言う事ができておりますし、その時の日本医師会の窓口が横倉会長であるということがございます。次に大分のことを言いますと、東九州自動車道がありますし、東九州メディカルバレー構想の話がありました、元々県と旭化成メディカルの提案でございましたが、私が加えたのは別府市のAPU（立命館アジア太平洋大学）まで必ず入れて世界へ目を向ける。そして血液フィルターや透析回路だけではないHALをはじめとする介護ロボット等を作り出している、2025年を見据えた産業連携拠点にする。そのために東九州自動車道が必要なんだと言うことでございます。これでもできてきたのではなからうかと思いま

後一点だけにします。『何故おまえは民主党なのか』ということです。政党にあまり関係ないと私自身も思っております。でも私が大事にしたいのは、現場を知っている働いてきた人が多くいる党が絶対に必要だと言うことです。労働組合だけの党ではないのです。私も外科医を23年やってきました。議員として少し先輩である吉良前代議士も商社で22年働いてきました。そういう感覚がある、働く者の代表の人が政策をとりまとめる必要が必ずあります。悪口はあまり言いたくありませんが、今の自民政権の中枢にいる方々は勤務したことのある人が居るでしょうか。2代目・3代目の政治家、あるいはずっと経営者です。現場感覚が本にあるのでしょうか。私が最初に連合大分に行つたときに当時羽明（はきら）会長でしたが、最初は厳しい白い目で見られました。おまえは医者じゃないか、何故労働組合に来るのかという目で迎えられるのかという目で迎えられるのか。私は日本一過酷な労働条件で働いている勤務医です。この私が医療の現場を救おうという声を上げなかつたら多分できません。一番過酷な労働者の代表だと思っております。〃と言

いました。その場で理解して頂いたと思っております。ですから私はあまり政党にはこだわろうとは思いませんが、働く者がどう考えてどう生きやすく、そして安心して死ねるためにはどうしたらいいのか。国会議員722名おりますが、人が死ぬ場面を一番見てきているのは私だという自負があります。納得して死にたいと、私自身もそう思っています。世界に目を開きながら、全国でもそうであり、この大分でもそのことを実現させて行きたいと思っております。



参議院議員・医学博士
足 立 信 也

年、1人区は全国で敗れました。でも私は大分1人区は、守り通したいと思っております。1対1の勝負をして、そしてこの大分では絶対に勝ち上がろうと思っております。私はまだ10年ではございません。私はまだ10年ではございませう、この先日本が抱える問題というのはある程度予測がつきます。予測がついているからこそ継続してやる必要があるし、更にステップアップして行きたいと思っておりますので、皆様方のご支援を今後とも賜います。本日はお願い申し上げます。お集まり下さいます。それからスタッフの皆さんありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

活動報告⑩ 東京

足立は、第186回国会(平成26年1月24日～6月22日)に於ける法案審議に政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会筆頭理事、厚生労働委員会委員、憲法審査会委員、行政監視委員会委員として参画しました。更に、平成28年の通常選挙に向けた参議院選挙制度改革について協議を行うために設置された選挙制度協議会(各会派の協議会)の委員として選挙制度改革案の審議にも参加。

一方、民主党に於いては、常任幹事(九州)として、党務の執行に関する事項およびその他の重要事項の承認、決定に携わり、政策立案に関しては税制調査会副会長、社会保障総合調査会副会長、政治改革・国会改革推進本部事務局次長、厚生労働部門会議委員等として参画しました。

厚生労働委員会

6月17日、田村厚生労働大臣は足立が前回の委員会で指摘していた「死亡診断書記入マニュアル」の不備を認め、平成27年度に向かって直していくと確言しました。

足立は「死亡診断書記入マニュアル」には二つの問題があり、医療の現場で混乱を招いていると指摘し、大臣に早



急な見直しを要請していました。一つは、法律で定められていないことを法律に基づく義務のように書いてあることで、もう一つは医師法21条に書かれている「死体又は妊娠4月以上の死産児を検案して異状があると認めた時に」の中の異状の解釈として、日本法医学会の「異状死ガイドライン」で提示している「診療行為に関連した予期しない死亡、およびその疑いがあるもの」等を参考にするように指示していることです。

今国会での厚生労働委員会において、足立は合計12回、425分の質疑を行いました。厚生労働委員の中で最も多い質疑時間です。今国会で可決された13本の中に最重要広範議案の扱いとなっていた、いわゆる「医療・介護一括法案」がありました。同法案の審議の際には19本もの関連法案が同時に審議され、更に、本

会議での対総理質問や参考人質疑、中央公聴会も行われましたが、足立はこれらの全ての重要な審議において民主党を代表して質疑に立ちました。

予算委員会

3月3日、足立は安倍総理に対して3年前の東日本大震災発生後に医療関連団体が一致団結して立ち上げ、多くの被災者に適切な医療等を提供してきている被災者健康支援連絡協議会に対する認識を質しました。

被災者健康支援連絡協議会は、東日本大震災の被災者支援のために、日本医師会や日本看護協会、全日本病院協会などの医療関係団体や、全国の大学が中心になって作ったもので、オールジャパンの医療支援体制になっています。設立以来、被災地の情報共有、医療支援の連携を進めながら、医療チームの中長期的な派遣、感染症対策など被災者の健康確保に必要な取り組み等を実施してきております。日本医師会から延べ5万人以上の医師・看護師・薬剤師・事務員、76大学から3267名の医師、日本歯科医師会から1030名の歯科医師、薬剤師会から6326人の薬剤師、看護協会から3770人の看護師が被災地に派遣されています。

この予算委員会の模様はNHKで放映され、多くの支援者の皆さんにも見て頂くことができました。



内閣委員会

5月20日、足立は菅義偉内閣官房長官に対して医療の不正研究防止・抑止についての対応等について質疑しました。

足立は内閣委員会に所属していないのですが、内閣委員会で、医療分野の研究開発の司令塔機能を創設し、医療分野の研究開発関連予算を一元化することにより司令塔機能を発揮させるために必要な予算を確保し、戦略的・重点的な予算配分を行うこと等の措置を講ずる重要な2法案、健康・医療戦略推進法案(閣法第21号)と「独立行政法人日本医療研究開発機構法案

(閣法第22号)」が審議されるため、民主党理事の要請で、差替え(委員の交代)で質疑に立ちました。

足立は、世界的に有名な雑誌に投稿した論文の撤回申し入れをしている米国の大学教授が、アメリカ国立衛生研究所(NIH)から2008年以降58億円の研究資金を受け取っていることを指摘しました。日本でも大学、製薬メーカーで研究不正が横行している事態に対し、不正研究による「公金不正流用」を防止・抑止する取組み方を法案に明記すべきだった。どのようにして研究不正を防ぐのか、このままでは日本の科学が信頼されなくなると、問いたました。

答弁に立った菅義偉内閣官房長官は、研究資金の供与を行う独立行政法人日本医療研究開発機構に於いては、機構自体が配分する研究費については、専門の部署を置いて、公正で適正な実施の確保を図っていくと説明しました。更に、閣議決定により設置した研究開発の司令塔機能を担う健康・医療戦略推進本部がまとめる戦略の中に、「関係機関等との連携を深めて、医療分野の研究開発が公正で適正に行われるように必要な施策」を盛り込んで参りたいと回答しました。いずれも全く理解していない答弁でした。

2014年前期 写真で振り返る大分での活動



1月26日(日) 安信会総会・新年互礼会
(大分市)



2月22日(土) 民主党報告会(豊後高田市)



4月13日(日) 連合大分第1回PWPY政治
研修会「講師」(大分市)



4月19日(土) 基幹大分 第4回政策セミナー
「足立信也と語る会」(大分市)



4月27日(日) 大内地区春祭り(大分市)



5月25日(日) 第43回博愛会交歓会
(大分市)



7月17日(木) 連合大分豊肥地区協議会政
治学習会「講師」(竹田市)



7月24日(木) パナソニックシステムネットワ
ーク労働組合PSNK支部 国政報告会(宇佐市)



7月26日(土) 農園でかたる会(日田市)

**足立信也と安心な日本を創る会
民主党大分県参議員選挙区 第1総支部**

大分事務所 〒870-0816 大分市田室町1番8号
TEL (097) 543-8484 FAX (097) 543-8488

東京事務所 〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館613号室
TEL 03-6550-0613 FAX 03-6551-0613



8月23日(土) 第3回門前夏祭り(大分市)



8月30日(土) 平成26年度民主党大分県
連夏季研修会(大分市)